

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月14日

協議会名：宇多津町地域公共交通活性化協議会  
 評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
宇多津町	<p>【宇多津町コミュニティバス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南北線(右回り)</li> <li>・南北線(左回り)</li> <li>・東西線(右回り)</li> <li>・東西線(左回り)</li> </ul> <p>マルナカスーパーセンター～宇多津町役場～マルナカスーパーセンター(JR宇多津駅含む)</p>	<p>＜前回の評価結果の概要＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広く利用者ニーズの把握に努め、より良いサービス内容を検討すること。</li> </ul> <p>＜評価結果の反映状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年10月から坂出市循環バスが宇多津町内への乗り入れを開始したことに伴い、乗り継ぎ方法や乗り継ぎ時刻を案内するマイ時刻表のフォーマットを作成した。窓口相談に来られた方に、乗り継ぎ時間等を説明の上、乗降停留所・時刻を記入し、お渡ししている。また、乗り継ぎ方法を記載した時刻表(チラシ)を作成し、町広報での周知の他、坂出市内の薬局にチラシ・マイ時刻表を持参し、設置及び乗り方のわからない人へマイ時刻表に記入していただけるよう依頼した。</li> <li>・令和6年10月から運行ルート・ダイヤ改正を行い、乗り継ぎの利便性の向上を図った。</li> </ul>	<p>A</p> <p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>【目標達成率】106.9%          (目標:12,000人/年)          【利用者数】43.8人/日          (対前年比:102.3%)          【収支率】14.7%          (対前年比:-0.3%)          【1便平均利用者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南北コース右回りルート 4.4人</li> <li>・南北コース左回りルート 3.5人</li> <li>・東西コース右回りルート 3.6人</li> <li>・東西コース左回りルート 4.8人</li> </ul> <p>利用者数年12,000人の目標に対し、12,831人と目標を上回った。令和4年5月の運行ルート・時刻表の変更、同年7月の通園支援事業開始以降、増加傾向が続いている。また、令和6年10月から利用者ニーズにあわせた運行ルート・ダイヤの改正を行い、他の交通機関への乗り継ぎによる利用者が増加した。これも、利用動向及び利用者のニーズを把握するとともに、利用者ニーズに対応したきめ細かなサービスの提供などを行ってきた成果である</p>	<p>今後も利用動向、ならびに利用者のニーズ(医療機関への通院、通勤・通学ニーズ、買い物など)を把握するため、アンケートや聞き取り調査を実施し、利用者ニーズに対応した時刻表・運行ルートの整備に努める。また、利用者が利用しやすい、わかりやすい公共交通になるよう努める。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画(又は地域公共交通計画)との関連について

令和8年1月14日

協議会名:	宇多津町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金(香川県)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>宇多津町は、瀬戸内海に面した香川県のほぼ中央にあり、東は坂出市、西は丸亀市に囲まれた人口18,220人(令和7年4月1日現在)、総面積8.10km<sup>2</sup>の町です。北部に市街地、南部に田園地帯が広がり、これを取り囲むように青の山、聖通寺山、角山などの山々が位置しています。本町の市街地は古くからの伝統と趣を残す既成市街地と、かつての塩田跡地を埋め立てて形成された新宇多津都市の特徴ある2つの顔を有しています。</p> <p>本町の交通機関は、JR宇多津駅を中心とし、コミュニティバス、タクシーにより構成される公共交通機関網が広がっており、令和2年10月より試行運行中の宇多津町コミュニティバスは、主に車を運転できない高齢者等の多い南北線沿線の住民にとって、医療機関、駅周辺及び商業施設の多い北部(東西線沿線)までの移動手段として、また生活に必要な不可欠な交通機能となっています。</p> <p>今後、さらなる高齢化が進んでいく中において、交通弱者の公共施設及び病院、スーパー等の商業施設への移動手段の確保が課題であり、これらの解決を目的として、地域公共交通確保維持事業により、効率的かつ効果的な公共交通ネットワークを確保・維持していくことが重要となり、宇多津町コミュニティバスの路線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要であります。</p>

# 宇多津町地域公共交通活性化協議会

地域内フィーダー系統  
事業評価(令和7年度)

## 宇多津町基礎データ

人口: 18,220人(令和7年4月1日現在)  
面積: 8.1平方キロメートル

## 地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

## 宇多津町における主な公共交通概要

○鉄道・軌道 JR予讃線

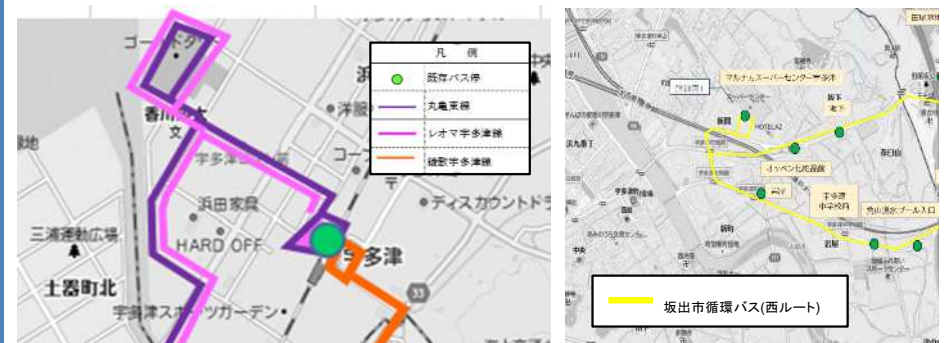
○バス  
(幹線)

- ・JR宇多津駅を起点とし、丸亀市と宇多津町主要施設を経由する丸亀市コミュニティバス
- ・マルナカスーパーセンターを起点とし、坂出市主要施設と宇多津町を経由する坂出市循環バス

(フィーダー)

- ・JR宇多津駅及びマルナカスーパーセンターで幹線につながる宇多津町コミュニティバス

## 宇多津町の公共交通ネットワーク図



# 宇多津町地域公共交通活性化協議会

地域内フィーダー系統  
事業評価(令和7年度)

## 協議会の構成員

香川県 宇多津町 四国運輸局 四国地方整備局 琴参バス  
(株) 大和タクシー 四国旅客鉄道(株) 学識経験者 香川県警  
察坂出警察署 香川県中讃土木事務所 宇多津町老人クラブ  
連合会 宇多津町自治会連合会 宇多津町身体障害者協会  
宇多津町民生委員児童委員協議会

## 前年度の事業評価における課題

利用動向、ならびに利用者のニーズ(医療機関への通院、通  
勤・通学ニーズ、買い物など)を把握するため、アンケートや聞  
き取り調査を実施し、利用者ニーズに対応した時刻表・運行  
ルートの整備に努める。また、利用者が利用しやすい、わかり  
やすい公共交通になるよう努める。

## 定量的な目標・効果

### 【目標】

宇多津町コミュニティバス利用者数 12,000人

### 【効果】

- ・公共交通の連携により、乗り継ぎの利便性が向上し、高齢者のみならず、自律的な移動手段を持たない人たちの移動を支える。
- ・高齢者が自動車の運転などを余儀なくしなくてもよい、自動車から公共交通への転換と安心・安全を確保する。
- ・町内主要施設へのアクセスを確保し、移動が困難な人が、公共交通を利用して外出できるようになる。

## フィーダー系統図



## 「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

- ・令和5年10月から坂出市循環バスが宇多津町内への乗り入れを開始したことに伴い、乗り継ぎ方法や乗り継ぎ時刻を案内するマイ時刻表のフォーマットを作成した。窓口で相談に来られた方に、乗り継ぎ時間等を説明の上、乗降停留所・時刻を記入し、お渡ししている。また、乗り継ぎ方法を記載した時刻表(チラシ)を作成し、町広報での周知の他、坂出市内の薬局にチラシ・マイ時刻表を持参し、設置及び乗り方のわからない人へマイ時刻表に記入していただけるよう依頼した。
- ・令和6年10月から運行ルート・ダイヤ改正を行い、乗り継ぎの利便性の向上を図った。

## 自己評価

### 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

### 「定量的な目標・効果」の達成状況

【目標達成率】106.9% (目標: 12,000人/年)

【利用者数】43.8人/日 (対前年比: 102.3%)

【収支率】14.7% (対前年比: -0.3%)

#### 【1便平均利用者数】

- ・南北コース右回りルート 4.4人
- ・南北コース左回りルート 3.5人
- ・東西コース右回りルート 3.6人
- ・東西コース左回りルート 4.8人

利用者数年12,000人の目標に対し、12,831人と目標を上回った。令和4年5月の運行ルート・時刻表の変更、同年7月の通園支援事業開始以降、増加傾向が続いている。また、令和6年10月から利用者ニーズにあわせた運行ルート・ダイヤの改正を行い、他の交通機関への乗り継ぎによる利用者が増加した。これも、利用動向及び利用者のニーズを把握するとともに、利用者ニーズに対応したきめ細かなサービスの提供などを行ってきた成果であると考えている。

## 今後の事業に向けた改善点

今後も利用動向、ならびに利用者のニーズ(医療機関への通院、通勤・通学ニーズ、買い物など)を把握するため、アンケートや聞き取り調査を実施し、利用者ニーズに対応した時刻表・運行ルートの整備に努める。また、利用者が利用しやすい、わかりやすい公共交通になるよう努める。

## その他PRポイント